

令和4年度 職能委員交流会 保健師職能委員会 書面開催結果（概要）

令和4年度保健師職能委員交流会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、書面開催となりました。テーマを『長期に渡るコロナ禍において、今、取り組むべき健康課題に立ち向かうために、現状と課題を共有しよう。』とし、紙上での設問にご回答いただき、各支部より13件の回答が得られました。今般、その結果を下記のとおりまとめましたので、ご報告いたします。

【設問Ⅰ】 コロナ禍における保健活動の現状と課題、今後に向けた取組について

1 新型コロナウイルス感染症の対応下、現に保健活動で大変だと感じていること、苦慮していること

（1）保健活動の実施や住民対応、関係機関との連携に関して

各支部ともに感染予防対策を徹底しながら保健活動を継続するよう努力しているものの、下記の点で非常に苦慮している様子が伺えました。コロナ禍での高齢者への影響を予測し、工夫しながら介護予防事業の継続を図っているとの回答もありました。

【保健活動関連】

- ・感染状況に左右され予定が立たない
- ・日程変更や中止、延期、企画変更等を余儀なくされた
- ・集団指導や参加型（集合型）事業への不安
- ・コロナを理由に訪問を拒否されるなど、対象者と会えず状況把握ができない
- ・検診受診率が低下、住民からの相談の増加
- ・リモート対応での課題（対応できない年齢層、会場や機器の確保）
- ・感染予防対策、コロナ対応等の正しい情報を伝えていく難しさ
- ・コロナで業務量が増大、スタッフ不足や人数調整に苦慮

【関係機関との連携に関して】

- ・リモート活用で連携手段確保、参集せずに会議開催ができ効率化が図れた
- ・リモートのための会場や機器の確保
- ・対面での会議を行うことができない

（2）保健師の勤務環境や体制の整備、健康面への影響に関して

各支部ともに、コロナ対応での業務量増大、休日出勤や時間外勤務の増加、疲労の蓄積等を挙げており、体調不良者が複数発生した所属があったこともわかりました。

【勤務環境や体制面】

- ・ワクチン接種や疫学調査、感染対策等の業務量の増加
- ・休日勤務（主にコロナワクチン）や時間外勤務の増加
- ・休みが取りにくい、人手不足、恒常的な応援体制
- ・家族のコロナ感染等による職員の勤務への影響

【健康面】

- ・職員の疲労蓄積、心身不調者の発生
- ・感染への不安があり心身共に負担
- ・自身、家族を顧みず業務に当たっている職員がいる

（3）保健師の確保や人材育成等に関して

業務逼迫や業務縮小等により新人や若手保健師の人材育成への影響等について課題と挙げている支部が多く見られました。（経験値の低下、指導時間の減少、指導体制面の課題等）

また、育休や病休等に伴う保健師の確保が困難と回答した支部もありました。

一方、人材育成計画の策定に向けて協議中のところや、統括保健師を中心としてマニュアルを活用した人材育成を実施しているとの回答も見られました。

【保健師の確保】

- ・ 育休や病休に伴う人材確保が困難、募集をかけても応募がない
- ・ 募集をかけることを受け入れてもらえない
- ・ 他課保健師やOBに協力してもらい対応している

【人材育成に関して】

- ・ 新人や若手保健師に対しての人材育成ができない
(理由) : 集団での健康教育機会の減少
事業の縮小や中止による体験機会の減少
住民との関わりの減少
業務逼迫により人材育成に使える時間が限られている
業務量が多くキャリアラダーが機能していない
分散配置でタイムリーな指導ができない
複数の新人の受け入れ 少ない人数体制の中での課題
- ・ 学生実習は受け入れているが、経験できる事業は限られている
- ・ 統括保健師が中心となり、マニュアルに基づいた新人教育を実施

(4) 新たな健康課題と捉えていることに関して

コロナ禍での外出制限、対人交流の減少、運動不足等により高齢者のフレイルや認知機能低下を課題として挙げている支部が非常に多くありました。また、精神的な不調や複合的な問題を抱えるケースの増加なども課題として多く挙げられていました。

このような課題への対策として、実施方法を工夫しながら住民との繋がりを切らないような事業継続に配慮しているとの回答も見られました。

【新たな健康課題】

- ・ フレイル、ロコモティブシンドローム、筋力の低下
- ・ 認知症、認知機能の低下
- ・ メンタル不調、アルコール問題
- ・ 孤立や外出減少
- ・ 学校生活や部活動での経験が減り、中高生の心の発達への影響を懸念
- ・ 検診受診率の低下により早期発見ができず、治療につながらない
- ・ 生活習慣病の増加
- ・ 複合的な問題を抱えたケースの増加、貧困や健康格差
- ・ ケース対応する支援者自身が余裕を持てなくなっている

2 1の課題等の対応として自施設または支部で行っている取組

それぞれの支部から、特色を生かした取組を実施していることが紹介されました。

盛岡支部からは、高齢者担当の課において多彩な手法を駆使して事業継続を図っている様子が紹介されました。好事例の取組については、今後、積極的に共有を図りながら課題の解決に取り組んでいく必要があると考えました。

【主な取組の紹介】

- ・ オンラインでの健康教育の取組、SNSでの情報発信強化（窓口紹介）
- ・ ケーブルテレビ、広報、ホームページの活用
- ・ 保健推進委員、民生委員等による情報発信
- ・ 受検率向上に向けた受診勧奨の工夫、セット検診の実施
- ・ 自宅でできる「かんたん体操」を作成し、動画配信や広報での連載、DVD貸出
- ・ 筋力アップ教室等での自宅でできる運動紹介
- ・ 認知症講演会の動画配信、DVD貸し出し
- ・ スマートフォンの使い方教室

3 保健師職能委員会で今後取り組んで欲しい活動や研修等

生活困窮者への支援、重層的支援体制整備事業における保健師の役割や対応事例の紹介、行政・産業・医療福祉・大学（教育）の分野で働く保健師の情報交換や課題の共有、ICTを活用した保健師活動、保健師のモチベーションの保ち方など、多数の要望が出されました。

今後、要望のあった内容について検討し、優先順位等を考慮しながら実現に向けて取組を進めていく必要があると考えました。

【設問2】保健師のネットワーク及び組織力強化に向けた取組について

1 支部内の保健師会員確保やネットワークに係る現状と課題

会員確保に関しては、若手会員の確保ができない、会員が少なく役員確保が大変、入会のメリットを感じない、多忙で入会しない、妊娠出産を機に退会する者が多いなどの課題が挙げられていました。

また、ネットワークに関しては、保健師の交流機会の減少などが挙げられていました。

(1) 現状

【支部内の保健師確保】

- ・保健師会員がいない、保健師会員の確保ができない、会員が減少
- ・新人保健師、若手の加入につながらない
- ・若い保健師にとって入会のメリットが少ないと感じる人が多い
- ・多忙のため看護協会に加入しない職員もいる
- ・妊娠出産を機に退会する方が多い
- ・会員が少ないため、役員確保が大変
- ・職場によって会員加入状況に差がある

【ネットワークの現状】

<できていない>

- ・他の職場との交流など、会員数を増やす取組ができていない
- ・業務多忙のため、管内での交流も難しくなっている
- ・支部内の保健師の集まりが協会のことに限らず持っていない
- ・市、町、保健所での情報共有の機会も減少
- ・産業保健に所属している保健師との交流も減少

<できている>

- ・支部内には2名の保健師職能がおり、支部会議時に情報共有している
- ・支部内では密に連絡を取り、足並みをそろえながら事業を実施
- ・研修会等で顔合わせした際に情報交換

(2) 上記推進に向けた課題

- ・入会金が高い、メリットを感じない
- ・日頃の交流が減少し、会議や研修も業務毎のため連携がとりにくい
- ・支部単位での交流が減少したと感じる
- ・業務が忙しいと看護協会への加入などを考える時間や余裕がない
- ・コロナ禍で若手保健師の採用が増えたが、交流する時間がない
- ・マンパワーの確保も必要だが、今いる職員の人材育成が必須

2 保健師会員の入会促進や会員数の維持に関して、施設や支部でこれまでに取り組んでいて効果的だった活動や新たなアイデア、手立て

若い保健師が入りやすいような会費設定や研修テーマ、オンラインやアーカイブ配信での参加しやすい研修企画等へのご意見が、多数の支部から挙げられていました。

そのほか、まずは支部内での交流から始める必要があるとのご意見も挙げられていました。

【協会に関して】

- ・会費が高く、若い職員には強く勧められない
安くて、メリットが感じられるもの、目に見えるメリットを
- ・若い保健師も入会しやすいよう会費を安く、研修テーマも参加しやすいものがよい
- ・オンライン研修、一定期間のアーカイブ配信で協会の活動に参加しやすくなるのでは
- ・看護師（医療機関）と保健師（行政）が連携できる取り組みが増えるとよい

【職場に関して】

- ・入職時に入会案内、入会メリットの紹介
- ・協会で学んだ研修や活動の共有により興味を引き、会員数の維持、入会促進
- ・保健師長自ら新採用保健師に加入の勧誘を行う

3 保健師のネットワークや組織力強化に関して、保健師職能委員会として取り組んで欲しい事業や活動

保健師同士の交流機会、看護師や助産師との交流機会、コロナ禍での工夫した事業の紹介などに関してのご意見が挙げられていました。

- ・会員だけでなく広く保健師が交流できる機会があるとよい
- ・保健師同士の交流会（GWを設けず、ざっくばらんに話をしたい）
- ・新任期（コロナ禍採用）の保健師を対象とした、サロンのような話せる場づくり
- ・保健師のキャリアレベル別の研修や交流
- ・エリア（内陸部・沿岸部等）毎の保健師の交流会
- ・他市町村とのネットワーク（相談できる関係性）
- ・看護師や助産師との交流
- ・コロナ禍での健康相談や介護予防事業などの開催方法や工夫した点などの紹介
- ・会員以外の保健師への研修周知、協会のPR
- ・協会活動の情報発信の検討（他県や他の専門職の取組事例を参考）

今回、ご回答いただきました内容の概要は以上の通りです。

コロナ禍の影響により、地域住民に新たな健康課題が生じていること、保健師自身の働き方や保健活動、人材育成への影響が大きいことを改めて把握する機会となりました。

また、保健師職能委員会としての活動へのご意見も多数いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今後も県内各支部の保健師職能委員とともに活動に取り組んで参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

保健師職能委員会

委員長 後藤未央子
小川 陽子
菊田 誠子
村山 美保
原田 幸恵
立花 泰子